

新宮山彦ぐるーぷ第2053回

持経宿・平治宿の巡回整備

◇実施日；2019年11月17日(日) 晴

◇参加者； 沖崎吉信・丈夫、児嶋道夫、山川治雄、岩本信行、

梶野照雄

(6名)

当初は持経小屋西側の斜面を整備して、便槽から汲み出した汚物を流すためのパイプを設置した後、水場上方の貯水槽とホースの調査だけを行う予定だったが、児嶋さんが持経小屋のバッテリー交換などを行うために参加、沖崎さんも予定が変更になり来ていただけることになった。



珍しい三輪車



紅葉の石ヤ塔



持経宿に到着

朝8時15分、スポーツ公園の駐車場に着くと、あまり見かけな

い2輪車がやってきた。一台は前輪が2輪の三輪車で、運転者に話を聞くとカナダ製だという。暫くして沖崎車が到着。降りてきた児嶋さんはこの2輪車グループの一人と知り合いのようで、話に花が咲いた。沖崎車には3名が乗車していた。沖崎さん、児嶋さんの他に一名、運転席に男性が座っている。よく見ると沖崎さんの息子さんだ。これで沖崎さんは飲み放題になるのかと思っていたら、行仙宿と違って、持経・平治宿にはビールのストックが無かったのか、空き缶の山は見当たらなかった。



小屋前には落葉が

汚物を流す樋を設置

8時40分にスポーツ公園を出発、持経宿を目指す。池郷林道はゲートまでの落石も殆ど無く、ゲートから持経宿までも傷んでいる所は無かった。9時20分に全車持経宿に到着。

山川さんは、直径30cm長さ3mの塩ビパイプを用意してこられた。

山川、岩本、梶野の3名で西側斜面の整備に取り掛かる。刈払機や

枝打ち鎌などで笹を刈り動きやすい広さを確保した。塩ビパイプを降ろして半分に分ける準備をしていると、児嶋さん等3名が平治宿へ先行するので、早々に作業を終えてあとを追うようにとのお達しがあった。

ディスクグラインダーに塩ビ切断用の丸鋸を取り付けて、発電機を動かし、塩ビパイプを縦割りにして、樋状のものを二つ作った。笹を刈り、枯枝などを取り除いた斜面に、従来からの樋と、今作った2本の樋を直列に繋いで、9mほど先の、斜面が少し急角度になった付近まで届くようになった。落ちていけないように最上部を針金で仮止めし、急いで平治宿に向かった。



桜の木にロープを掛ける 平治宿の水場は水場は涸れていた

平治宿に到着。児嶋さんは小屋の上に伸びた桜の木にワイヤーでスレーを取り、引っ張って直立した状態に戻すという。ワイヤーやウインチ、木に巻き付けるタイヤも用意してきていた。引っ張って木の姿勢を直すためには、かなり高い位置にワイヤーを

取り付ける必要があるが、桜の木には下枝が全くなく、登ることができない。岩本さんが屋根に上がって細引きを投げ、手が届かないところにロープを引っかけることができた。まだまだ時間が掛かりそうなので、水場の状態を確認に降りる。

先週、行仙宿で植平さんが水場に降りて下さり、水流が無く溜水を使うしかない、との報告を受けていたので、平治宿の水場もたぶん涸れているだろうと予想していたが、案の定、水流は全くなく、貯水槽からも水は流れ出していない。グレーチングのカバーの上に落ち葉がたくさん積もっていたが、水槽の中には少量しか入っていません。底には泥が少し積もっていたが、流れ込む水がないので底浚えはしなかった。



ウインチで桜の木を引っ張る

持経宿の水場は健全

水場から戻ったが、桜の木を引っ張る作業は苦戦している。切りの良いところで中断して昼食にするように伝え、小屋内で食事を摂った。食後は恒例のコジマカフェが開店した。

湿っていた小屋の床も、南東の隅を残して全て乾燥していた。  
食事休憩が終わり、山川、梶野の2名は、持経宿水場調査のため  
先行して持経宿に戻った。



80 m上でホース発見

左岸でタンクを確認

40分で持経宿に到着、樋設置のため広げたままの道具類を片付け  
て水場に向かう。持経宿の水場は水流こそ減ってはいるが、相変わ  
らず流れ続けていた。パイプを掃除してから岩盤の沢筋を直登する。  
乾いている部分は登りやすいが、黒い苔が生えたようなところは大  
変良く滑るので慎重に登った。林道から80 mほど上がった所でホ  
ースが沢の中央部にたわんでいるのが見つかった。先端は切れてい  
るのか、どこにも繋がっていない。そこから上方20 m位にいた山  
川さんが声を上げた。「タンクがあった！」沢の左岸、少し平らに  
なった場所に持経宿行者堂裏に置いてあるタンクと同じものが据  
えられていた。タンクの中は空っぽで、そこには少し乾燥した泥が  
溜まっていた。取水口には塩ビパイプが繋がっていたが、先端は割

れてどの位置から取水していたかは不明だった。下部にホースが繋  
がっていたようだが、こちらも根元から外れていて、元の状態は判  
らなかった。

タンクは左岸にあるので、ホースは沢を横断している。取水は沢の  
中央部からだすると、どちらも上からの落石の直撃を受ける可能  
性が高い。ホースの劣化も激しく、あちこちで切れており、穴が開  
いている部分も見つかった。ホースは持経宿まで、ほぼ林道に沿っ  
て引かれていて、途中、空中を通っているところが何カ所もあった。  
ホースだけだと直線状になっているが、通水すると水の重さが加わ  
り、空中を通過している部分は垂れ下がってしまう。これを防ぐに  
はメッセンジャーケーブルを張り、それに沿わせて固定することが  
必要になる。



煙突の延長作業

本日の参加者

林道ゲートの紅葉

取水の問題、配水の問題、小屋迄の約400 mの距離を考えると工  
事にかかなりの時間と労力が必要になるし、定期的なメンテナンスが

欠かせないと思われるため、小屋迄の配水は断念する、と言うことが二人の結論だった。

水場の上方にあるタンクは解体して林道まで降ろし、廃棄処分する予定である。ホースもできる限り撤去しようと考えている。

下りは、若干踏み跡が残っている北側の尾根伝いに降りた。タンクを運び上げた時はこのルートを使ったものと思われる。

持経小屋に戻ると、全員平治宿から帰ってきていた。児嶋さんと岩本さんは煙突の延長工事をしてきた。煙突工事が終わったので、コーヒーを入れて休憩。その後児嶋さんはバッテリーの交換と発電機のオイル交換を行った。

全ての作業を終え、全員の写真を撮って持経宿を後にした。

午後3時半、林道ゲートで解散、それぞれ帰途についた。

今回は林道の傷みが無く、落石も少なかったので、池原↓持経宿間は短時間で行くことができた。また、作業も盛りだくさんとなり濃密な一日だった。あわよくば水場から持経宿までの送水復活を、と思っていたが、一筋縄にはできないことが判り、残念であった。この送水ラインを敷設した先人の苦勞に頭が下がる思いだ。

(記・梶野)

スポーツ公園 08:40→09:16 持経宿→11:06 平治宿 12:23→13:10 持経宿→13:33 水場上のタンク→14:03 持経宿 15:08→15:30 林道ゲート